

トサムラサキ観察記

前崎 光生¹⁾・寺森 正行²⁾

1. はじめに

トサムラサキ（クマツヅラ科）に出会ってから丁度1年が経ちました。これまでの観察結果を報告します。

下関市の北部、豊北町に豊北峡という峡谷がある。この峡谷は風車の林立する白滝山の北側にあり、西流して栗野川に合流する蓋の井川の源流部にあたる。峡谷の入口、蓋の井集落には周囲が3メートルを越えるハマセンダンがあり、峡谷の周辺にはアオモジ、タイミンタチバナ、リュウキュウマメガキ、トベラ、カンコノキ、シタキソウ、ハウロクイチゴ等、沿海、海岸性の植物も多く見られる所です。

2. トサムラサキとの出会い

私達二人は、2012年1月11日シダ観察を目的にこの峡谷の本谷林道の終点を目差した。砂防ダム 工事中の第3支谷（便宜上、林道のある谷に下流から順に番号を付けた）の分岐点（後にNo.4を発見）を更に進んだ。シダ観察とて地面付近ばかり見乍ら歩いていると、突然目の前に紫色のジュータンが現れた。驚いて上を見ると紫のカーテン！更に、枝に手を触れると、今度はパラパラと紫色の物が落ちてきた。やがてムラサキシキブの仲間だと見当が付いたがこれまで全く見たことの無いものだった。まず、果序の多さ、大きさ、粒の小さいこと、落葉した枝にびっしりと付き地面にも一面に落ちていた。果実の大きさ2ミリくらいのものが1果序に50粒~300粒付いていた。次に木の大きさ、高さ約6メートル、胸高周囲320ミリ、樹皮は縦に沢山の裂け目があった。図鑑で調べても果実の大きさが2ミリとあるトサムラサキに似ているだけで、木の大きさや樹皮は全く違う。ここからこの木との1年間の付き合いが始まった。

3. 観察記

3月10日 1キロメートル下流の第2支谷で、シダ調査に同行した際リーダーが紫色の果序を一個拾われたので、広島から参加されていた人に見て貰ったところ「宮島で見たトサムラサキに似ている」との言を得た。以後、発見順に、この木をNo.2、最初の木をNo.1として観察を続けることにした。

5月9日 葉が出ていた、腺点や脈上の毛はあったが形がずんぐりトサムラサキとは違うと思った。

5月17日 長門峡でお会いした広島大学名誉教授の関太郎先生に偶然車に積んでいた標本を見て戴いたところ「トサムラサキです」とのこと。その際に「種を播きました」と伝えたところ「発芽

¹⁾ MAESAKI, Mituo 〒759-6523 下関市吉見下1171-3

²⁾ TERAMORI, Masayuki 〒756-0817 山陽小野田市小野田7255-3

率が良いよ」と言われた。

5月23日 葉は少しずつ細長いのが現れ、先が尾状に尖ってきた。

6月13日 開花にはもう少しかかりそう。この日約3キロメートル離れた足河内川でNo.3を発見。

樹高約6メートル、胸高周囲330ミリ、葉の大きさは長さ16～17センチであった。この木も蕾はまだ堅かった。

7月17日 開花しているのを確認。色はうす紫色ではなく、純白色だった。

10月12日 No.1、No.3の紫色の果実を確認した。No.2は暗い所にあつて胸高周囲135ミリで樹高5メートル、花や果実は最上部に少し見える程度だった。

一方、我が家で1月20日頃に播いておいた種子が10本程度発芽しているのを確認したのは6月1日だった。果実を水の中で潰して沈殿したものを播いた。1果に4粒入っている極小さい種子で、最終的には100近い芽が出て、移植したものが現在30本程育っている。

4. 産地訪問

果実から果実までと大体1サイクル観察してきたので二人で宮島のトサムラサキを見に行った。11月2日宮島の海沿いの道を車で走っていたままたま休憩した所で、又もや偶然、2本のトサムラサキに出会った。いずれも樹高約6メートル胸高周囲330ミリと350ミリ、縦皺も同じだった。広島大学宮島自然植物実験所に寄って持参した3本の標本を見て貰ったところ「葉が少し大きいけどトサムラサキです。宮島にはうす紫色の花と白い花と両方ある」とのことだった。ここで教えて戴いた他の2ヶ所の自生地にも行き約10本見た。全て谷川の傍で葉が少し小さく既にうす黄色くなり、落果も始まっていた。

その後、11月21日豊北峡本谷でNo.4、第一支谷でNo.5、11月28日小河内峡で3本、12月20日約7キロメートル離れた大坊ダム周辺で2本見付けた。標高は約20～160メートル。

5. 未だ残る疑問

(1) 発芽率は良いのに木の下に苗が見えなかったのは何故か。これは宮島でも同じだった。

(2) この木はいつからここにあったのか。

林道の上、掘削斜面、護岸の石垣の水面から1メートルの所、林道工事か砂防工事の際に出たと思われる盛り土の上にも生えていた。1本を除いて全て水より10メートル以内にあった。

今後は、この10本の木を継続して観察、果実の行方や年間成長率も調べたい。若い木にも出会って更新を見届けたい。

又、機会があったら他の産地も訪ねて見たいと思っている。



6. 終わりに

タンポポ調査が縁で結成した老々コンビ、まもなく2周年を迎える。

名前はまだ無い。自転車で「人生下り坂最高!」と叫ぶ人も居るが我々は決して急がず（急げず）、あの山、この谷と文字通り「山と溪谷」を遡る旅をこれからも楽しみたい。

同定して下さった関太郎先生、いろいろ教えて下さった宮島自然植物実験所の皆様、発表の機会を与えて下さった山口博物館の田中、島村の両先生に心から御礼申し上げます。

参考文献

城川四郎、高橋秀男、中川重年、写真：茂木透、ほか
ハンディ図鑑 5 樹に咲く花 344p、350p 山と溪谷社